

# グリーン&ビリーブメント研究

## 投稿規程

2022年4月12日改訂

### ■投稿資格

投稿者（筆頭著者）は日本グリーン&ビリーブメント学会の会員に限る。ただし、共著者はこの限りではない。投稿原稿は、他誌（外国雑誌を含む）に掲載済みもしくは印刷中、投稿中でないもの（研究報告書、学会発表ならびに抄録での発表は含まない）に限る。

### ■投稿原稿の区分

投稿原稿の種類と内容、字数（図表・写真・注・引用文献を含む）は、原則として表1の通りである。図表・写真は1点につき600字換算とする。ただし、1頁全体を使用する図表については1600字換算とする。

投稿原稿の区分については、編集委員会が最終的に決定する。

なお本誌には投稿原稿のほか、編集委員会が必要と認めた記事を掲載する。

種類	内容	字数
原著	本学会の主旨に相応しい主題に関するオリジナリティの高い研究に基づく学術論文	和文 20000 字以内
資料	原著に準ずる研究で、資料的価値のある論文	和文 12000 字以内
総説	本学会の主旨に相応しい主題に関連した学術論文、書籍等を網羅的に検討し、研究動向や将来展望を提示する論文	和文 20000 字以内
事例報告	本学会の主旨に関連し、今までに報告されていない事例について、対象者の背景や症状、治療・介入の経過等を、考察を含めて報告するもの	和文 8000 字以内
実践報告	本学会の主旨に関連し、社会的意義が高いと認められる実践的活動について、経緯や現状、課題等の詳細を報告するもの	和文 8000 字以内
書評	本学会の主旨に関連した書籍を論評し、会員に紹介するもの	和文 2000 字以内

### ■執筆要領

別に定める本誌の執筆要領に従い、倫理的配慮・個人情報保護には、十分に配慮することとする。

### ■投稿原稿の採否

投稿原稿（「書評」は除く）の採否は、本会審査規程に則って査読を行い、編集委員会が審議し採否を決定する。

編集委員会は、投稿原稿について修正を求めることがある。指定の期間内に再投稿されない場合は、新規投稿として扱う。

掲載順は編集委員会が決定する。採否の検討は受付順とし、掲載は原則として受理順とするが、編集の都合等により掲載順序が前後する場合がある。

なお、原稿の到着日を受付日とし、採用決定の日を受理日とする。

### ■投稿・掲載に係る費用

論文の投稿ならびに掲載は無料とする。

英文アブストラクトの原稿校閲については、事前に必ずネイティブに校閲を依頼し、執筆者本人が費用負担するものとする。

別刷を希望する場合は、30部以内は無料。それを超える場合は、その実費を著者本人が負担するものとする。

#### ■著作権

本誌に掲載された論文の著作権は、日本グリーン&ビリーブメント学会に帰属する。

#### ■原稿の提出方法

提出期日は設けず、随時、投稿を受け付ける。

投稿に際しては、以下のものを提出するものとする。

1. 投稿申込書（投稿原稿の種類、表題、著者名、所属機関名、連絡先）
2. 表紙（投稿原稿の種類を明記したうえで、表題、著者名、所属機関名、要旨、キーワード（5つ以内）、**running title**（40 words）をいずれも和文と英文の両方で表記）
3. 原稿（図表などを含む）
4. 著作権譲渡同意書
5. 利益相反（COI）申告書

#### ■その他の注意事項

英語論文については、専門分野の用語を理解しているネイティブの校閲を受けた後、投稿する。

原稿は、E-mail に添付し、下記の編集事務局宛に送付する。

ファイルサイズが大きい場合には、各種のファイル転送サービスを活用することを認める。

#### 【原稿の送付先】

「グリーン&ビリーブメント研究」編集事務局  
福島県立医科大学 災害こころの医学講座内

E-mail: [journal@js-gb.com](mailto:journal@js-gb.com)

# グリーンフ&ビリーブメント研究

## 執筆要項

2023年3月1日改訂

### ■論文の体裁

#### ○ファイル形式

原稿は Microsoft Word で作成する。他のソフトウェアを使用する場合は、Text 形式で保存する。図表に関しては他のファイル形式も可とするが、印刷時には白黒印刷になることに留意する。

#### ○書体

ひらがな、カタカナ、漢字、句読点と本文（和文）中の括弧は全角で、それ以外（数字、アルファベット、記号）は半角にする。数字にはアラビア数字（123…）を使用する。

全角文字については、太字および斜体は使用しない。また、本文・図表とも、機種依存文字や特殊文字の使用は避ける。

#### ○句読点

和文の本文中では、「、」と「。」に統一する。句読点以外の「、」「;」「:」「;」などは、すべて半角とする。

#### ○章立て

章・節につける番号は、1. …、1.2. …、1.2.1…とする。

#### ○書式

本文の作成には A4 判用紙を使用し、横書き、新仮名遣い、新字体使用を原則とする。

文字サイズは 12 ポイントで、行間は 2.0（ダブルスペース）に設定する。

#### ○注

本文中での注は、Microsoft Word の「脚注」機能を使用する。テキスト形式の場合には、本文のあとに番号順に並べる。注の数は最小限にとどめること。

### ■表紙

投稿原稿の種類（原著、資料、総説、臨床報告、実践報告、書評）を明記した上で、以下の事項を日本語と英語の両方で表記する。ただし、英語論文の場合は、抄録とキーワードは英語のみ。表紙に含まれる事項は規定字数に含まない。

- (1) 表題・副題
- (2) 著者名（全員）
- (3) 所属機関名（全員）（役職は不要）
- (4) 抄録（和文 400 字以内、英文 300 words 以内）
- (5) running title（40 words）
- (6) キーワード（5 語以内）（英語表記は文頭のみ大文字とする）

#### ○所属機関名の書き方

\*1) 第 1 所属名 \*2) 第 2 所属名 \*3) 第 3 所属名・・・

とし、著者名に上付きで所属名の記号（\*1）、\*2）・・・）を入れる。

##### a. 著者名の表記の例

日本太郎\*1)\*2)、桜花子\*3)、・・・

なお、投稿時と掲載時の所属が異なる場合は、筆頭著者のみ、現在の所属を次のように付記する。

\*1) 第 1 所属名（投稿時） #1) 第 2 所属名（現在） \*2) 第 3 所属名・・・

b. 追加の所属の表記の例

日本太郎\*1) #1)、桜花子\*2)、 . . . .

■本文

- 言語は日本語または英語とする。
- 外国の人名・地名は原語表記とし、薬品・試薬名は一般名の英語表記を用いる。その他の学術用語や専門用語は日本語表記を用い、必要な場合は初出箇所原語及び略語を（ ）で付記する。再出箇所では略語表記も可とする。
- 計量単位は、国際単位系（SI）を用いる。
- 人名には、原則として敬称や肩書をつけない。
- 本文中における文献の引用
  - 文献引用はハーバード方式に従う。
  - 本文中では、著者名と出版年を示す。なお、区切りの記号としてはテンではなく、コンマを用いる。
    - a. 文頭の例：  
松井（1997）は. . .
    - b. 文末の例：  
. . . といわれている（Fulton, 1987）。
  - 共著の場合は引用ごとに両著者の姓を書く。著者姓の間は、日本文中の日本語では中黒（・）、英語では“&”で結ぶ。
    - a. 文頭の例：  
Payne & Relf（1994）は. . .
    - b. 文末の例：  
. . . した（藤崎・西山, 2006）。
  - 著者が3人以上のときは、第1著者の姓の後を、日本語表記では“ら”、英語表記では“et al.”と略す。  
例：西川ら（2001）は. . .  
. . . した（Davis et al., 1998）。
  - 同一箇所に2つ以上の文献を示すときは、（ ）内に著者姓のアルファベット順に並べ、セミコロン（;）で区切る。  
例：. . . した（Kessler, 1987; 戈木, 1999）。
  - 同一著者の文献が複数ある場合には、コンマで区切って年次順に並べる。  
例：平山（1996, 1997）は. . .
  - 同一出版年のものについては、出版年の後に a, b, c, . . . を付して区別する。  
例：. . . した（河合, 1997 a, 1997 b）

■図表

- 図は、Figure 1、Figure 2あるいは図1、図2のように、表は、Table 1、Table 2あるいは表1、表2のように通し番号をつける。
- 挿入希望位置を原稿の右余白に指定する。印刷の都合上、指定通りにならない場合もある。
- 図・表・写真は各々につき600字として換算する。
- 写真・図表は、印刷時にはカラーではなく白黒とする。
- 図表を引用する場合は、図表のタイトルの後に（○○, 2002）のように記載し、引用文献として明示する。ただし、あらかじめ著作者に転載の許可を得ておく。

## ■倫理的手続き

- 本文中に「倫理の手続き」として、対象者の同意を得た方法や、研究論文に関しては倫理委員会の承認および承認番号について明記する。
- 資料の二次的使用については著作権者の許諾、その他必要と思われる事項を記載する。
- 助成・寄付を受けて実施した研究や活動などについては、その旨を記載する。
- 事例の記述においては、匿名性の確保に努める。
- 下記のものについては、倫理委員会の承認を必要としない。それ以外は、原則、倫理委員会の承認を必要とする。判断に迷う場合は、必ず編集委員会に問い合わせをすること。
  - 1) 事例報告  ただし、対象者の同意は、文書（不可能な場合は口頭）で必要。
  - 2) 実践報告
  - 3) 広く一般に公開されているデータベース等からの情報を用いたもの

## ■引用文献

- 引用文献は APA スタイルにて、必要最小限のもののみ掲載する。なお、引用文献は規定の文字数に含む。
- 文献の記載順
  - 本文及び図表で引用した文献は、本文の後に日本語・外国語のものを分けず一括して、筆頭著者名（姓）のアルファベット順に、番号を振らずに記載する。列挙する文献は引用したものに限る。
  - 同一著者の文献が複数ある場合は、早い年次のものから並べ、同一出版年のものは、本文中で出版年の後に付した a, b, c, … の順に列挙する。
- 著者名の記載
  - 著者名は、日本語では姓名を書く。姓と名を分けるほうがよいときは、間を一字あける。英文では、姓、コンマ、半角スペース、名のイニシャル、ピリオドを記す。イニシャルでは不十分のときは、名を略さずに書く。
  - 共著の場合、著者の間を、日本語では“・”（中黒）、欧語では半角スペースの後“&”（3人の場合はコンマと半角スペースで区切り、最後の著者の前にコンマと半角スペースの後に“&”）を入れる。4名以上の場合は3人目まで書き、後は「他」もしくは「et al.」とする。
  - 団体や機関名義のものは、名称を略さずに書き、個人名と同様にする。
  - 新聞・雑誌記事の引用は、著者が不明な場合は記事タイトルあるいは見出しを先頭におく。著者が明らかな場合は、著者名、記事タイトルの順で記載する。新聞・雑誌記事の場合は出版年だけでなく、月日も表記する。
- 逐次刊行物の記載
  - 著者名、刊行年、表題、誌名、巻数（号数あるいは通し番号）、掲載ページを示す。掲載ページは、文献の最初と最後のページをハイフン（-）で結ぶ。学会抄録を引用した場合は、誌名の箇所に抄録集名を記す。例：

松島たつ子・赤林 朗・西立野研二（2001）. ホスピス緩和ケアにおける遺族ケア：遺族ケアについての意識調査と今後の展望  心身医学, 41(6), 429-437.

Parkes, C. M., Benjamin, B., & Fitzgerald, R. G. (1969). Broken heart: A statistical study of increased mortality among widowers. *British Medical Journal*, 1, 740-743.
  - 印刷刊行されることが確定しているが、未刊である場合には（印刷中）もしくは（in press）と記す。なお、原則として公刊されることが確定していない論文の引用はできない。

## ○書籍の記載

- 和文書籍の場合は、著者名、刊行年、表題のほか、版数、出版社名を書く。欧文書籍の場合は表題の後、版数、出版地、出版社名を書く。

例：

小此木啓吾（1979）. 対象喪失. 中公新書.

Parkes, C. M. (1972). Bereavement: Studies of grief in adult life. New York: Penguin Books Publishers.

- 著書・編集書・監修書の特定章の場合、日本語では、章題目、編著者名、書名、出版社、“pp.”の後、掲載ページを書く。英文では、“In”につづいて編著者のイニシャルを先に書き、ピリオド、一字あけて、姓を記す。その後、書名、出版地、出版社、“pp.”、掲載ページを示す。

例：

平山正実（1997）. 死別体験者の悲嘆について：主として文献紹介を中心に 松井 豊（編）悲嘆の心理サイエンス社 pp.85-112.

Silverman, P. R., & Klass, D. (1996). Introduction: What's the problem? In D. Klass, P. R. Silverman, & S. Nickman (Eds.), *Continuing bonds: New understanding of grief*. Washington, DC: Taylor & Francis. pp.3-27.

- 翻訳書の場合は、まず原著を引用し、（ ）内に訳書に関する情報を示す。

例：

Parkes, C. M., & Weiss, R. S. (1983). *Recovery from bereavement*. New York: Basic Books. (池辺明子（訳）（1987）. 死別からの回復 図書出版社)

- ウェブ・ページの引用の場合には、アドレス及びアクセスした日を記す。

例：

警察庁生活安全局生活安全企画課（2009）. 平成20年中における自殺の概要資料

[http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/81/210514\\_H20\\_jisatsunogaiyou.pdf](http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/81/210514_H20_jisatsunogaiyou.pdf)（2009年9月29日閲覧）.